

令和4年度 栄養管理における多職種間連携強化支援事業ワーキング会議概要

日 時	令和5年3月1日(水) 13:30~15:30	実 施 場 所	ZOOMによるオンライン会議														
出席者	<p>・栄養管理連携パス構築ワーキング委員 31名 (中和保健所管内の医療機関、介護・福祉施設の管理栄養士、東和医療圏の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センター、訪問看護ステーションのケアマネジャー、看護師等、奈良県栄養士会管理栄養士)</p> <p>・アドバイザー：畿央大学 准教授 熊本登司子氏</p> <p>・事務局：中和保健所 6名</p> <p style="text-align: right;">計 38名</p>																
目 的	<p>栄養サマリー等の多職種への周知・理解を広め、在宅と病院・施設間で行えるよう多職種の意見を集約し、多職種で活用できるよう体制整備する事を目的とする。</p>																
内 容	<p>1. 挨拶 奈良県中和保健所 保健所長 山田 全啓</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 「栄養サマリー」運用の経緯及び令和3~4年度のアンケート調査結果報告について <small>奈良県中和保健所健康増進課</small></p> <p>(2) 療養者の栄養管理について 畿央大学健康科学部健康栄養学科 准教授 熊本 登司子氏</p> <p>(3) 意見交換「今後の栄養サマリーの効果的な運用について」 <small><栄養サマリーについて></small></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病院</td> <td>・同じツール・認識で共有していくことで、情報共有が可能。</td> </tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td> <td>・栄養サマリーは書きやすい。県下で統一された様式の方が使いやすい。 ・奈良県栄養士会の栄養評価チェック票を活用している。 ・栄養サマリーはどの職種も知っておくべき。 ・共通理解として進んでいけばよい。</td> </tr> <tr> <td>在宅介護支援センター</td> <td>・栄養サマリーの様式は見やすい。</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護</td> <td>・看護サマリーは食事に関する情報が不足。 ・現在、食事の写真を撮って添付している。 ・栄養サマリーには必要な情報が入っているので、活用したい。</td> </tr> <tr> <td>奈良県栄養士会</td> <td>・地域ケア会議に栄養士会として参加。栄養に問題がある事例が少なかったが、栄養士から見ると問題のある事例もあった。 ・栄養状態のチェック・スクリーニングをするための評価表を作成。地域包括支援センター等に活用するよう依頼している。</td> </tr> </table> <p><small><今後について></small></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>地域包括支援センター</td> <td>・栄養に関する関心度は、病院、施設により差がある。奈良県内のすべての病院で栄養サマリーを活用してもらうことで足並みがそろう。 ・看護師対象に栄養サマリーの研修があってもよい。</td> </tr> <tr> <td>奈良県栄養士会</td> <td>奈良県栄養士会や認定栄養ケアステーションから訪問栄養指導を実施。 ・フレイル予防、疾病の重症化予防のためにも、早めに訪問栄養指導や栄養士を活用してほしい。</td> </tr> </table>			病院	・同じツール・認識で共有していくことで、情報共有が可能。	地域包括支援センター	・栄養サマリーは書きやすい。県下で統一された様式の方が使いやすい。 ・奈良県栄養士会の栄養評価チェック票を活用している。 ・栄養サマリーはどの職種も知っておくべき。 ・共通理解として進んでいけばよい。	在宅介護支援センター	・栄養サマリーの様式は見やすい。	小規模多機能型居宅介護	・看護サマリーは食事に関する情報が不足。 ・現在、食事の写真を撮って添付している。 ・栄養サマリーには必要な情報が入っているので、活用したい。	奈良県栄養士会	・地域ケア会議に栄養士会として参加。栄養に問題がある事例が少なかったが、栄養士から見ると問題のある事例もあった。 ・栄養状態のチェック・スクリーニングをするための評価表を作成。地域包括支援センター等に活用するよう依頼している。	地域包括支援センター	・栄養に関する関心度は、病院、施設により差がある。奈良県内のすべての病院で栄養サマリーを活用してもらうことで足並みがそろう。 ・看護師対象に栄養サマリーの研修があってもよい。	奈良県栄養士会	奈良県栄養士会や認定栄養ケアステーションから訪問栄養指導を実施。 ・フレイル予防、疾病の重症化予防のためにも、早めに訪問栄養指導や栄養士を活用してほしい。
病院	・同じツール・認識で共有していくことで、情報共有が可能。																
地域包括支援センター	・栄養サマリーは書きやすい。県下で統一された様式の方が使いやすい。 ・奈良県栄養士会の栄養評価チェック票を活用している。 ・栄養サマリーはどの職種も知っておくべき。 ・共通理解として進んでいけばよい。																
在宅介護支援センター	・栄養サマリーの様式は見やすい。																
小規模多機能型居宅介護	・看護サマリーは食事に関する情報が不足。 ・現在、食事の写真を撮って添付している。 ・栄養サマリーには必要な情報が入っているので、活用したい。																
奈良県栄養士会	・地域ケア会議に栄養士会として参加。栄養に問題がある事例が少なかったが、栄養士から見ると問題のある事例もあった。 ・栄養状態のチェック・スクリーニングをするための評価表を作成。地域包括支援センター等に活用するよう依頼している。																
地域包括支援センター	・栄養に関する関心度は、病院、施設により差がある。奈良県内のすべての病院で栄養サマリーを活用してもらうことで足並みがそろう。 ・看護師対象に栄養サマリーの研修があってもよい。																
奈良県栄養士会	奈良県栄養士会や認定栄養ケアステーションから訪問栄養指導を実施。 ・フレイル予防、疾病の重症化予防のためにも、早めに訪問栄養指導や栄養士を活用してほしい。																
アンケート結果	<p>アンケート調査の結果、「療養者の栄養管理について」全員が理解でき、参考になったという回答であった。今後の活用については66.7%が活用していく、29.2%が活用したいが、不安が残るという回答であった。</p>																
今後について	<p>今回は、東和医療圏の多職種間でワーキング会議を実施し、栄養管理の重要性や栄養管理伝達ツールとしての「栄養サマリー」「食形態一覧表」を周知することができた。今後活用していくという回答も多く、東和医療圏では「栄養サマリー」を活用した情報共有が期待できる。療養者が医療機関や介護・福祉施設等で受けた栄養管理や食生活サービスが途切れることなく提供するために、多職種間連携し、情報共有することが重要。今後は他の医療で、栄養管理伝達ツールとして「栄養サマリー」「食形態一覧表」の活用促進を図る。</p>																